



青南だより

令和3年5月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

<きみのいたばしょ>

『きみのいたばしょ』¹⁾という絵本があります。表紙は、妊婦さんの大きなおなかに小さい子がそっと話し掛けている写真です。みんなの顔や体がみんな違うように、全て違う大きなおなかの写真がたくさん並んだページには「きみはうまれるまえから、たったひとりのきみなんだ」とあります。その他にも「きみがここにいたとき すべてのおかあさんはこう想っていたんだよ。元気でうまれてくれれば ほかにはなにものぞまない」「いいかいきみは、愛のリレーのランナーだ」など、心に沁み入る内容が続きます。そして、最後のページの文は、たった1行「きみは愛されたから、生きている」です…。

<誕生日は、ありがとうの日>

私は、誕生会で「今日はおめでとうとお祝いしてもらえる日だけれど、あなたがここにいられるのは、あなたを産んで育ててくれたお母さん、お父さん、お家の人のお陰だよ。だから、『産んでくれてありがとう、育ててくれてありがとう』と言う日だよ」と話します。子どもが元気に育つことは決して当たり前ではなく、有り難いことなのです。

<親その人を与えられたい>

子どもを授かると親としての生活が始まり、少しでもいい子に育ててほしいと思うのは親心です。しかし、日本の幼児教育の父、倉橋惣三は『育ての心(上)』²⁾の中で、「子というものは、親から教育を与えられたいなどとは願っていない。願っていることは、親その人を与えられたいことだ」と語っています。子どもの自立を促す我々も、まず信頼関係を築くことから始めます。何かをさせようとするのではなく、安心して自分から動き出せるようにすることが何より大事なのです。

・・・皐月(さつき)・・・

立夏(5日)… 初夏の風を受けてこいのぼりが泳ぎます …
小満(21日)… 園庭の緑がぐんぐん膨らみます …

5月5日はこどもの日です。子どもたちの健やかな成長を願い園庭にこいのぼりが泳ぎます。園庭のあちこちで、動けないはずの草や木々が、命を輝かせ嬉々として活動している声が聞こえるような季節です。草花の前でちょっとしゃがんで、相手の目線に合わせて見ると、意外な真実が見えてきます。実はこれ、子どもと関わる私たち教師にとっては、基本の構えでもあるのです。

【引用文献】1) サンクチュアリ出版 監修:Studio navel(スタジオ ネーブル)、文:池田伸、イラスト:コヨセ・ジュンジ デザイン:大津佑子 2) フレーベル館 著:倉橋惣三



年少児の園庭デビューを年長児がエスコート



園庭の草花を使って楽しい表現が生まれます



年少組はすてきな木陰で砂場遊び



掲示板で倉橋惣三の言葉を紹介しています



年長児は2～3人で相談してこいのぼり作り